釜石の歴史 よもやま話 2

歴史のさんぽみち編（1）

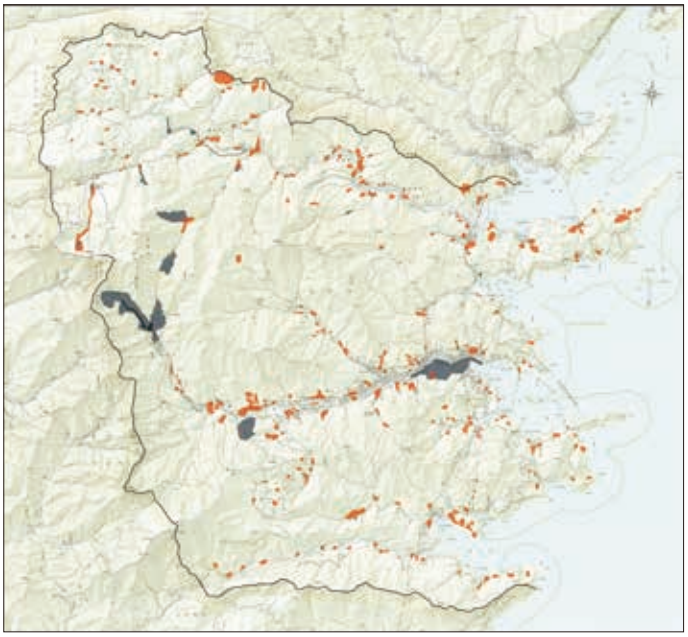
問い合わせ 市文化振興課 ☎27-5714

「歴史のさんぽみち編」は、釜石の遺跡・歴史・文化財について6回にわたり紹介します。第1回は釜石の遺跡と街中にある文化財「一ノ橋橋台跡」を紹介します。第2回以降は釜石の主要な遺跡と文化財を紹介します。

釜石に眠る遺跡

遺跡とは縄文時代から近代まで、人々が生活した痕跡が発見された場所のことで、正式には「埋蔵文化財包蔵地」と言います。釜石市内に眠る遺跡は現在322カ所あり、このうちの大半を占めるのは今から2千年以上前の縄文時代の遺跡です。

こうした遺跡は現代の開発行為に伴い、滅失する場合に発掘調査が実施されます。発掘調査では昔の人の住居跡や、土器や石器などの遺物が発見され、その一部は釜石市郷土資料館で展示したり、出前講座で公開しています。



釜石市詳細遺跡分布図
赤色は埋蔵文化財包蔵地
灰色は近代化産業化遺産群

遺跡から出した矢尻（やじり）や土器など

一ノ橋橋台跡（只越町～港町）

一ノ橋橋台跡は釜石湾にそそぐ、汐立川に設置されたレンガによる鉄道のための橋台跡で、官営製鉄所時代に、釜石港から大橋までの区間の物流をスムーズに行うために設置されました。震災前の呑兵衛横丁のあった場所のやや海側に所在します。この鉄道は工部省鉄道寮釜石鉄道として明治7（1874）年、釜石に官営製鉄所の建設が決定した後に計画され、明治9（1876）年に日本の鉄道としては2番目に工事に着手、明治13（1880）年に日本で3番目の鉄道として運行が開始されました。明治15（1882）年には一般の乗客の利用も可能となりました。官営製鉄所廃止後は、機関車やレールなどの付属品が大阪の実業家藤田伝三郎らに払い下げられましたが、明治20（1887）年に田中製鐵所が発足した後、再び鉄道が整備され利用されました。

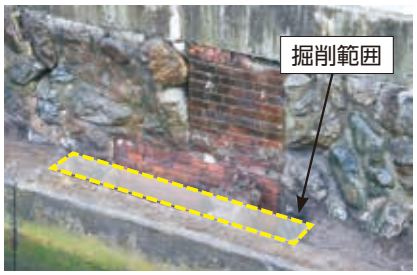
一ノ橋以外でも幾つか当時の名残を見ることができます。皆さんもご存じの五ノ橋や七ノ橋は名称として残っています。当時の煉瓦橋梁は現在も小川や大松に残っており、小川のアーチ橋梁（1号・2号）は市の指定文化財となっています。

市は、本年2・3月に、汐立川の改修に伴い、一ノ橋橋台跡の発掘調査を実施しました。橋台が土中深くまで残っていることが確認され、レンガや薬瓶などの遺物が出土しました。レンガの積み方が乱れており、補修や改修をした可能性があります。

一ノ橋橋台跡は、鉄のまち釜石にとって重要な遺跡であることから、現状保存が決定され、現在もその姿をみることができます。

皆さんも時間がある時にぜひ見学してください。

一ノ橋橋台跡（北東側）



一ノ橋橋台跡（南西側）

一ノ橋橋台跡位置図

広報 かまいし 2020 5 15 No.1736
発行 釜石市 編集 広聴広報課
〒026-8686 釜石市只越町3-9-13 ☎22-2111 FAX 22-2686
ホームページ https://www.city.kamaishi.iwate.jp/